

論文

# ロシア語母語話者による日本語 アクセントの産出 —起伏型に焦点を当てて—

木元めぐみ・林良子

## 要旨：

日本語教育において、音声コミュニケーション習得の必要性が広く認識されるようになって以来、日本語学習者のアクセントやイントネーションといった韻律習得研究が盛んに行われてきた。日本語の韻律を担うピッチアクセント習得研究は、学習者数の多い中国語、韓国語、英語などを中心に精力的に行われており、習得過程に現れる母語ごとの韻律的な特徴が明らかになってきた。それらの成果は、日本語教師が音声指導を行う際の資料として貴重なものとなっている。一方で、ロシア語を母語とする学習者の音声研究は非常に少ないという指摘がある。ロシア語圏においては、日本語の音声教育への強い要望があることから、ロシア語を母語とする日本語学習者のピッチアクセント産出について行った研究結果を本研究では報告する。本研究の産出実験は、ロシア語が母語の日本語学習者 23 名が読み上げたアクセントを、日本語教授経験を持つ日本語母語話者 5 名が判定するものである。判定結果を数値化し、日本語の 4 つのアクセント型と、起伏式および平板式の二通りの方法で分類し、正用率の比較を行った。2 拍および 3 拍頭高型、3 拍および 4 拍中高型の正用率が高く、7 割から 8 割であった。統計による分析を行ったところ、起伏・平板式の分類による語群間に有意差が認められ、ロシア語を母語に持つ日本語学習者にとっては、起伏式は平板式よりも産出しやすい傾向があることがわかった。本研究では、産出しやすいアクセント型として起伏式アクセントを示し、そして音声指導の際は、平板式アクセント型をよく練習することが必要である

と提案したい。

**キーワード：**日本語アクセント習得、ロシア語母語話者、アクセント産出  
実験、起伏式アクセント、平板式アクセント、母語干渉

**Abstract：**

There has been extensive research about Japanese language acquisition in L2 phonology since the importance of oral communication was proposed. Japanese word accent is one of the important components of Japanese prosody, which motivated previous research about learners' realization of that Japanese pitch accent and many have successfully proved the diversity of L1 transfer. However, some studies have claimed that research about L1 Russian learners of Japanese has been little investigated in spite of a strong concern over oral communication in Japanese language education among the Russian-speaking world. In this respect, it is necessary to specify their phonological acquisition process because L1 transfer description helps teachers to seek a more effective way of their teaching. This study was undertaken in order to better understand the production of Japanese word accent by Russians. The experiment in this study consisted of data collection of samples of Japanese words that 23 learners of L1 Russian read aloud, and were judged to be correct or incorrect by 5 Japanese native speakers with Japanese language teaching experience. The results were quantified and analyzed statistically according to accent group classification. The comparison of two accent groups as "accented" and "unaccented" led to the interpretation that the accented word patterns were produced more correctly than the unaccented ones for L1 Russian learners of Japanese. It also should be presumed that the learners' production was highly affected by their L1 being Russian, caused by the different accent system between pitch and stress. It is hoped that the findings in this study will contribute to a better comprehension of the L1 Russian case in phonological acquisition of

Japanese language and also will be one of the keys for teaching Japanese accent.

**Keyword** : Second Language Acquisition, Japanese word accent, learners of L1 Russian, accented words, unaccented words, L1 transfer

## 1. はじめに

日本語教育において、音声コミュニケーション習得の必要性 (鮎澤, 1999) が広く認識されるようになって以来、日本語学習者のアクセントやイントネーションといった韻律習得研究が盛んに行われてきた (戸田, 2008)。日本語音声の知覚や産出の特徴は学習者の母語により異なっており、それらの研究結果は、教師が音声指導をする際の貴重な情報となっている。ロシア語圏では音声指導に対する要望が強いにもかかわらず、日本語学習者の音声教育に特化した研究そのものの数が非常に少ないという指摘がある (渡辺, 2011)。そこで、音声指導に役立つ情報が得られるよう、ロシア語を母語とする学習者がどのように日本語アクセントを産出するかについて調査を行い、その結果を報告する。

## 2. 先行研究

日本語学習者のアクセント習得に関しては、「東京語アクセント聞き取りテスト」 (鮎澤, 1997) をはじめ多くの研究が行われている。ただし、ロシア語を母語に持つ日本語学習者の音声習得研究は数少ない。ロシア語母語話者による日本語アクセントの知覚について実験的な検討を行った論文としては、唯一、船津・井内 (1997) が挙げられる。

日本語とロシア語はアクセントの位置が単語ごとに決まっている点および弁別機能がある点において共通しているが (亀山, 2012; 城田, 2010)、